

再検証要請対象医療機関における2025プランについて

上段 医療機関名 下段 開設者名	【H29年度病床機能報告】① 上段：許可病床数 下段：稼働病床数					【H30年度病床機能病床機能】 上段：許可病床数 下段：稼働病床数					2025年【病床機能】② ※下段はH29年度病床機能報告との差 (②-①) ※2025プランより抜粋					機能変更あり	うち過剰な病床機能へ の転換	うち増床	2025年に向けた対応方針（抜粋）					
	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中その他	計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中その他	計	高度急性期	急性期	回復期				慢性期	休棟中	介護医療院等	計	今後地域で担う役割等	病床機能の変更予定 (増床・減床を含む)
相模原赤十字病院 (B) (相模原)		132				132		132				132		92	40				132	●		<ul style="list-style-type: none"> ・地域の災害医療拠点病院及びDMAT指定病院として機能強化を図る。 ・地域の在宅医療支援医療機関と協力し、患者に安心を提供できる診療ネットワークを構築することを目標としている。 ・地域全体の医療・看護・介護の質の底上げがさらに必要だと考えており、地域にある在宅や介護施設（病院を除く）は当然として、回復期、慢性期病院においても地域住民の健康の保持・増進と健康障害時、入院前後の対応と、安らかな死へのケアの充実を図ることが必要だと考える。今後、回復期、慢性期病院への訪問やカンファレンスを通じた現状把握と、問題点の抽出、解決策の立案と実施、評価を繰り返しながら、病院以外の介護施設も定例の会議等を開催し情報共有や問題解決を図っていきたいと考える。 ・当院は相模原構想区域の緑区内、特に旧津久井郡内において、介護施設、福祉施設からの入院患者を多く受け入れており、取扱う疾患も内科では誤嚥性肺炎、整形外科では転倒による骨折等の高齢者特有の疾病が多い状況にある、今後も住民の高齢化やサービス付き高齢者住宅棟の増加が多く見込まれており、高齢者の急性期疾患に対応する機能を持った当院が、他の回復期、慢性期の医療機関と役割を連携しながら、急性期医療を担っていき、さらに当院の訪問看護を基軸として在宅医療の強化を図り、地域完結型の医療を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2019（令和元）年7月、急性期病床の一部を回復期（地域包括ケア）病床へ転換済・地域住民への医療の提供と受け皿となること、急性期治療を終った患者が在宅復帰に向けた支援を行える病棟を併せ持つこと、訪問診療・訪問看護部門を強化し、在宅医療の推進を図ることが、今後の病院の役割と考える。 	
日本赤十字社		132				132		132			132	=	△40	+40				-	済					
東芝林間病院 (A)(B) (相模原)		159	40			199		159	40		199		129	70				199	●		<ul style="list-style-type: none"> ・政策医療（5疾病、救急）対応を継承、地域の急性期医療を担う。(acute) ・地域の回復期ニーズは旺盛であり積極的に受入れて機能拡充を図る。(post acute) ・後方支援を強化・ネットワーク化し在宅・施設入居時の急変に対応する。(sub acute) 	現在の回復期リハ40床に加え、地域包括ケア30床を急性期病床から転用、病床管理強化（院内転床）と地域ケアニーズ（subAcute）を賄う。		
東芝健康保険組合		159	40			199		159	40		199	=	△30	+30				-	予定					